

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年8月1日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・0歳児「砂や水に触れてみよう」

<テーマ設定理由>

園庭では、砂に触れて遊んだり、保育室やベランダでは、シャワーで汗を流したり、湯水遊びを経験してきました。どちらも子どもにとっては感触を楽しめる大好きな遊びです。今回は砂と水を両方使って一緒に遊ぶ体験をしました。

2. 活動スケジュール

4月から園庭で好きな遊びを楽しむ中で、砂に触れる遊びをしてきました。7月から暑い日にシャワーで汗を流しました。7月中旬くらいから、ベランダで湯水遊びをしています。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・砂場にて、バケツ、水道水、ホース

4. 探究活動の実践

<活動内容>

・全身を使って遊びを楽しめるように、洋服を着たまま園庭に誘いました。
 ・子どもが砂の感触を素足で楽しめるように、靴や靴下を脱いで砂場に誘いました。
 ・はじめは様子を見ていた子どももいましたが、保育士もはだしになって一緒に遊び、少しずつ水をかけると嬉しそうにしていました。
 ・全く抵抗なく砂場に入る子ども、座り込んであまり触らない子どももいました。
 ・保育士がホースで水を汲むと、バケツに入った水を眺めていました。
 ・自分で持ち運んで、こぼすことを喜んでいました。
 ・砂場に運ぼうとする子どももいました。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

子どもの姿・声

・砂を手ですくう、こねる、叩く、足で踏みしめるなど、全身を使って感触を確かめながら「ジャー」「ちゃっちゃっ」などの声や喃語を発している。

・バケツを自分で持ち上げて水をかぶる、砂を見つめて黙々と触る。

・保育士が水を出しているのをよく見ている。自分で「やってみたい」という気持ちに夢中になっている表情や、驚き・嬉しさが見られる。

子ども同士のかかわり

・同じバケツや水たまりに集まり、互いの動きをじっと見たり、隣の子の真似をして砂をたたく、水を流すなど、模倣を通してかかわりが広がっています。

・バケツを差し出したり、相手の顔や体に水や砂がかかって「びっくり」し合う経験から、表情の変化を見て笑い合ったり、その反応を楽しむやりとりが生まれている。

保育者とのかかわり

・保育者がそばで「冷たいね」「ザラザラするね」「いっぱい入ったね」などと声をかけながら、子どもの視線や仕草に合わせて共感的に反応していることで、その言葉に子どもが目を合わせたり笑顔を見せている。

・バケツに水を入れるのを自分でやってみたい、バケツに入った水を砂場に運びたい、こぼれてくる水に驚いたり、面白がったりしている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・0歳児にとって、砂や水にたっぷり触れることは「手や足などで感じる感覚」「自分でやってみる意欲」が同時に育つ大切な経験ではないかと思えます。

・裸足で砂場を歩いたり座ったりしながら、乾いた砂・湿った砂・水たまりなど足裏や手のひらで違う感触を確かめています。

・砂が手足にまとわりつく、たたくと飛び散る、水をかけると色や重さが変わるといった「水や砂の性質」に、全身を使って出会う機会になっていると思えます。

・バケツに水を入れて運ぶ、ひっくり返す、水を流すなど、同じ動きをくり返ししながら「こうするとどうなるかな?」と0歳児なりに因果関係を確かめているように思えます。

・自分の思いのままに砂を掘る・集める・叩くといった試行錯誤を通して、「できた」「おもしろい」という達成感や探索意欲を育てています。

・近くで同じように砂や水に触れている友だちの姿をじっと見たり、同じバケツや水たまりに手を伸ばしたりしながら、「一緒の場を共有する心地よさ」や他者への関心が芽生えています。保育士や年上の子が水道から水をくむ様子を見て知っていて、自分もしようとしています。

・保育者がそばで受けとめながら言葉を添えることで、「してみたい」「やってみたね」「冷たいね」など、自分の感覚や気持ちをことばに結びつける芽生えも支えられています。

・汚れてもよい環境や服装の中で、全身を使って水をかぶる・砂を踏みしめるといった大胆な動きが保障され、身体の使い方やバランス感覚、解放感が育っています。

・信頼できる大人に見守られながら思いきり遊ぶことで、「ここなら安心して試してよい」という基本的信頼感も深められています。